



2021年6月22日 キリスト教センター通信 リレーメッセージ 第35号

## 「この人を見よ」

キリスト教センター長 藤倉哲哉

入試の面接の質問の必出項目に「将来の進路」がある。大学の受験時に明確な進路も難しいのか「まだわかりませんが4年間で考えます」「具体的には決めていませんが英語を使う仕事に就きたいと思います」という回答も少なくない。

それでも「教員になって母校でクラブの指導をしたい」という受験生に「あなたは良い先生に出会ったのですね」と返すと、例外なく相好を崩して「自分も顧問や監督の先生みたいになりたい」と答えるので、いわゆる中の人としては応援したくなくなってしまふ。

最近、個人的な質問が合否に関わることを避けるため「尊敬する人物」を尋ねることができない。しかし、具体的な行動や思考について「この人みたいになりたい」と模範とするロールモデルがあれば、人はそこに向けて勉強したり努力したりできる。

誰かの真似をすればいいとは言わないが、その背中を見て育った親のようにになりたい、親切に指導してくれた先生のようにになりたいなど身近な人が手本で構わない。努力や鍛錬を極めたカリスマでもトップアスリートでもいい。モデルになる誰かを見つけて、その人を好きになり、その姿を思い描いてみたら、将来の進路を決める際のヒントになるかも知れない。

\* \* \* \* \*

### 一口メモ 「日本の聖歌」

聖歌というと西洋が起源と思いがちですが、日本人が曲作りを手がけたものもあります。主に聖職や信徒が作詞、作曲、編曲を通じてそれぞれの信仰を表したというべきもので、聖歌集の索引などを調べてみると、そこそこの数が出てきます。



Photo : Itoh Junko

今回のメッセージのタイトル「この人を見よ」は聖歌357番「まぶねのなかに」からの引用で、作詞・作曲は日本のオリジナルです。また、聖歌532番「エルサレムの町の」は G. ホルストのジュピターが原曲で、「いやし」をテーマにした日本語の歌詞がついています。なかには「広島」、「長崎」、「沖縄」を織り込んで平和を祈る聖歌もあり、いろいろと奥が深いことに気が付きます。

- 新型コロナウイルスの被害を覚えるお祈り -

※ みなさんもお時間のあるときにお祈り下さい

神戸国際大学の学生のための祈り

いつくしみ深い神よ、新型コロナウイルスの感染拡大により、困難な日々、孤独な状況、不安の中にあるすべての神戸国際大学の学生のみなさんのために祈ります。どうか、彼ら彼女ら一人ひとりの心を支え、お守りください。そして私たちに、あなたの知恵と力が与えられ、今できることを考え、神さまの、み心にかなった正しい行動を心がけることができますように。そして、共に心を合わせて、新型コロナウイルスの一日も早い終息を祈り、求め続けることができますようにお導きください。このお祈りを、主イエスさまの、み名によっておささげいたします。アーメン

病に苦しむ人のための祈り

慈悲の父、慰めのもとである神よ、現在、新型コロナウイルスに感染し、痛みや苦しみ、不安や悲しみの中にある人のために献げる祈りをお聞きください。どうか病で困難や不安の中にある人を憐れみ、み恵みによってその体と心を強め、病を癒やしてください。また、医師と看護する者とを助け導き、その働きを支えてください。そして、何もできずに不安と悲しみの中で苦しむご家族やご友人、また、私たちの心も神さま、あなたが愛によってお救いください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

離れている大切な人を覚える祈り

愛なる神さま、あなたは、み手を伸べていつも私たちをお守りくださいます。どうか、遠く離なれて暮らす家族や友人を様々な困難な状況からお守りください。そしてこの不安定な世界において、必要な糧が与えられますように。心と体が守られ、健やかに日々を過ごすことができますように、どうかあなたがお支さえください。また、不安の中で医療に従事する人々のために祈ります。どうか一人ひとりの働きが祝福され、感染者の回復を助け、支える力をお与えください。そして彼らが感染から守られ、新型コロナウイルスの終息に向かうことができますように。この小さなお祈りをイエスさまによってお願いいたします。アーメン